

やなせがわ

広報



(ガザニア)

第 27 号

発行

2008 年 05 月 31 日

柳瀬川町内会

広報部

ボランティア

柳瀬川町内会会長 竹前 栄二

ボランティアは『みかえり』は求めません。しかし『報酬』はきちんとあるのです。

それは喜びです。あるボランティア活動の方はその報酬をこう言いました。まわりの人が喜びを知り、また自分も喜びを知る。『自他共に喜ぶ』こと……。

現代は、パソコンや携帯メールの発達で、人と直接話さなくとも情報の交換ができるようになりました。一面「楽な方法」ですが、それが豊かな生活をもたらすとは限りません。

せちがらい世の中、隣に住む人の名前も分からない。話をするのは面倒だから、できればいたくない……。また、何でもお金に計算する。そのため多くの人は、自分さえ良ければいい……と近隣の方たちともなるべく付き合わずに自分の殻に閉じこもる……。

しかし、人間は社会的な動物であり、他者との関わりの中で

こそ真の充足感が得られます。人は一人では生きていけません。人という字はお互いに支え合うと書く、外れれば『バツ』になってしまう。

組織が嫌だといくら叫んでも、人は何らかの組織に入り、助け合って動いています。

嫌でも組織からは離れられないのなら、取り敢えずでも、入っている方が良いはずです。

人と会い、語り合う……。近隣との関係を大切に……。一見「面倒で大変」と思えるこうした生き方が、自身の成長や地域社会の発展にとって、どれほど大きな力となっていることか。

町内会も、何もないときはわずらわしいものかも知れませんが、しかし、「地震」「火事」「洪水」「家庭での災害」など、自分の家にはそんな災難はない……。地域においても起こらない……。思いやすいことが実際には起きているのです。

阪神・淡路大震災でも、被災した人は「この地域には、あるいは自分の家だけには起きない

と思っていた」と口々に言っています。

何かことが起きたとき、組織があれば、皆で助け合うことができます。近隣の意思疎通があれば救助も素早く行うことができます。

町内会は一人ひとりの会員が『ボランティア』です。行事などを行ったとき、参加された方の一人にでも喜んでもらえれば、それが喜びの『報酬』ではないでしょうか。

私たち役員も『みかえり』を求めずに、求めるのは他の人の喜ぶ姿でありたいと思っています。「皆で励まし合い、支えながら行動する」町内会を目指したいものです。

☆☆



※ 当町内会の宿願だった会館が完成しました。その経緯は次のページをご覧ください。

町内会館落成と水害対策

元・柳瀬川町内会館建設委員会

委員長 田村 友一

黒字に銀色の「柳瀬川町内会館」の文字が朝日に映えて一段と眩しい。すぐ隣にはポンプ場が誇らしげに建っている。じっと見つめていると、走馬灯のように過去の経緯が脳裏を駆け巡る。ある朝のひととき、なんとも感無量である。



私がこの地に転入したのが昭和56年。初めて電車を使って柳瀬川駅から新居に向かう途中、不思議な光景を目にした。現在はこちらはご覧のとおり遊歩道になっている排水路だが、当時は岡田屋

(現セイムス)の前から続く片側だけのコンクリートの塀であった。後日塀の訳を聞いてびっくり、その塀は水害対策のためだということ。とすると、こちら側の水害対策は必要だということか。今もって納得いかない。

当時、昭和53年ごろ、館大排水路の比流量(柳瀬川へ排水できる量)は毎秒5トで認可がおりていたと聞いている。したがって、それに対応する毎秒5トの設備が必要であった。

それから20年の歳月が流れたが、通称三角広場の土地のことも絡み、行政も追いつかず台風シーズンには毎年のように水害を被ってきた。

そこで平成11年2月、私が町内会長のとき、「館大排水路に関する陳情書」として

一、ポンプ場を一刻も早く建設し、水害を被ることがないようにしていただきたい。

二、ポンプ場建設時の余剰地を柳瀬川町内会館の建設用地として貸与していただきたい。

三、排水路を暗渠化して環境衛生

面の改善並びに景観の向上を図っていただきたい。

以上三項目にわたって約300名の署名を添えて市・県に陳情書を提出した。このときがこれから目標に対する具体的な出発点であった。

特筆すべきは、約300名の「住民の力」だ。今まで何回となく少人数で要望してきたときは明らかに市と県の対応が違うことを痛切に感じた。

その成果は次のことから明らかだ。

一、平成11年9月、県で決定する「比流量」が従来の0.6トから約3倍弱の1.59トンにアップされたこと。これと同時に毎秒0.5トン(従来は0.1トン)の可搬式大型ポンプが導入されたこと。

二、同年12月、ピット建設と同時に0.5トンのポンプがもう一基増設され、排水能力が合計1トに倍増した。

三、さらに経過すること6年、平成17年6月、待望の毎秒1.59トの固定式ポンプが完成、従来の可搬式ポンプ2台と合わせて毎秒約2.6

トとなり、何と陳情前の約26倍となった。これでもまだ比流量の半分なのである。それまでがいかに貧弱な設備であったかを知ることができる。

四、そして今回(20年3月)の会館の完成である。

云うなれば何れも館大排水路に関する水害対策の一環であって、その成果は繰り返し申し上げるが300人の「住民の力」の結晶であり決して1人や2人の力でできたものではない。

町内会独自の会館を所有する計画の歴史は古い。かつて昭和63年頃、倉田元会長が志木中学校敷地の三角地に計画したことがある。いったんは許可になったが道路の接点がないため「ボツ」になった経緯があった。20年前のことである。

三角といえば長年親しまれた「三角広場」そして会館の敷地がこれまた三角。さらに町内全体が概ね三角、よほど三角に縁があるように思える。水は低い方へ低い方へと流れる。正に自然の法則なのだ。柳瀬川と排水

路の交わる所は三角形となり地形としては当然低くなる。従って、当町内は柏・館地区では一番低い所であり、水害対策の必要性を再認識することである。

ちなみに当排水路に流入する雨量を私なりに計算するとおよそ次のようになる。

■ 館大排水路に流入する雨量と排水量

時間当たりの雨量	流入割合別必要排水量(毎秒)	
	70 %	80 %
20 ミリ	1.8 トン	2.1 トン
25	2.3	2.7
30	2.8	3.2
40	3.7	4.2
50	4.8	5.3

- ① 排水路に流入する流域面積は 48 ヘクタール(東京ドームの約 10.3 倍)として計算した。
- ② 現在のポンプ能力=2.6 トン/秒
- ③ 地面浸透率を 20%～30%(空地や畑により違う)と想定し、流入量は 70%と 80%で試算した。
- ④ 試算値から一時間当り 25 ミリの雨量が限界であり危険値となる。

※ 流入率はあくまで私の推定。

したがって、会館前に広いスペースを取ってあるのは将来のポンプ増設の予定地として確保してのためである。

建設委員会を立ち上げて十年、長いようだが、ある程度想定してのことであつた。陳情書にポンプ場建設の「余剰地」としてあるのも水害対策が最優先で委員の任期も会館ができるまでとしたのもそのためである。曲折を経てようやくでき上がった、これでやっと開放されホッとしている。これも、このことに関った総ての方々のおかげと感謝している。委員の皆様もご苦労さまでした。

しかし、まだポンプの増設と暗渠の件が残っている。幸いにして現会長の竹前氏は若さと、何よりも積極的に物事に取り組む姿勢、そして幅広い知識を兼ね備えた人であり、このことは今回会館建設に敏腕を振るったことから見ても明らかである。必ずや英知を駆使して残る二つの事業を達成してくれるものと信じてやまない。そのた

めに私を含め会長経験者及び役員そして会員一同全面的なバックアップを惜しむものではない。柳瀬川町内会のため、問題解決の達成に尽力されることを願ってやまない。

☆☆

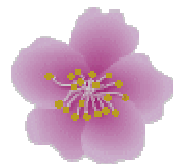
3 月 15 日の開館落成式であいさつする長沼市長



いい年齢をとりたい!

柳瀬川さくら会会長

奥村 隆重



去る四月二十六日、柳瀬川町内会に老人クラブ「柳瀬川さくら会」が発足しました。「とし」をとって(いえ、人はどの年代でも)何よりも心配なのは身体のことです。ずっと健康を保っていききたいなと思います。

そんな折、何気なく見ていたテレビ番組から、「鈍感力」と言うセリフが流れ、よく見れば渡辺淳一さん登場の番組でした。私は今まで、鈍感とか鈍いという言葉がマイナスイメージの強いものとはばかり思っておりました。ところがそうでないばかりか、それに「力」までつけた渡辺さんの一言一言に感じ入り、結局、終わりまでその番組を見てしまいました。

「健康であるためにもっとも大切なことはいつも全身の血がさ

らさらさらと流れることです。

そのために、あまりくよくよせず、他人に嫌なことを言われても、すぐ忘れる。このいい意味での鈍(にぶ)さが、血の流れをスムーズに保つ要因になるのです。」(渡辺淳一さん著の「鈍感力」から引用)

さらに「血液さらさら」の続きを拝借しますと、

「われわれの血管は自律神経によつてコントロールされています。いい意味での鈍感力をもった人の自律神経は、異様な刺激に見舞われることなくいつも血管を開いて、さらさらと全身に血を流すように働いています。」

とあります。人にとつてどれだけ「鈍感力」が必要か、またそれが人の健康にいかに関係があるかが、この本に書かれています。

医学博士の肩書きをお持ちの渡辺先生(さんを先生に変更)は、作家となる前に10年間お医者さんとして大学病院に勤務された経験があります。

自律神経と血液・血管に関連

して、先生は「自律神経には交感神経と副交感神経との二つがあり、この両者はお互いに相反するように働きます。」

交感神経は緊張やいらいら、不安などが高じるとともに血管を狭め、血圧を上げます。一方、副交感神経はこれと逆に血管を広げ、リラックスさせ、血圧を下げるように働きます。」と述べ、続けて「ある高齢者の施設で、お笑い芸人を呼んで健康維持のためにつとめている」これは「皆で楽しみ、笑うことで血管を広げ、血の流れをスムーズにして色々な病気を撃退しよう、という目的である」ことがわかってくるというのです。

寒いときは血管を狭めて体温の低下をくい止め、暑いときは血管を広げて汗をかかせて体内の熱を発散させるのが自律神経です。自律神経は体のバランスを保つ重要な役割を持っているわけです。いい意味での鈍感力が、自律神経に必要以上の負担を強えず、体の健康を保つ原動力になるというわけです。

町内会の、「柳瀬川さくら会」への入会資格をお持ちの方々は、戦中・戦後の大変なときを生き、働いてきた方ばかりです。長年使ってきた体です。ところどころ故障が起きても止むを得ません。薬を飲んで、傷は治して、大事な体、大切に労わっていきましょう。

町内会館のカラオケをみんなで楽しみ、笑い、勝手なおしゃべりをして、血液がさらさら流れる体にし、いい年齢がとれるように、智恵を寄せ合っていきたいものです。

さまざまな外界の変化に対応し、その状態になじみ、協調していく。こうした能力は「環境適応能力」といい、外界の気圧や温度の変化への対応はもちろん、人間関係、社会状況にも合わせていける能力であり、これも鈍感力が原点だと渡辺先生は書いています。「さくら会」が楽しく、大きく成長して、柳瀬川町内会々員相互の親睦と連帯感の強化に寄与できればこの上ない喜びと考えます。

☆☆

防犯隊長 受諾にあたり一言

防犯防災部長(3班) 池端 行雄

薔薇の新芽がぐんぐん伸び、色鮮やかに花が咲き、年間で一番気持ちの良い季節を迎え、会員の皆様方におかれましては健康やかにお暮らしのこととお慶び申しあげます。

平成20年度の町内会防犯隊長を仰せつかりました第三班の池端(いけはた)でございます。微力ですが皆様方の後押しを頂戴しながら、町内からの犯罪・災害・事故等の未然防止に努めて参りたく考えております。総会の席にて竹前会長の挨拶の中で今年度は防犯・防災に力を入れて取り組むとの強調の言葉があり、私も改めて責任の重さを再確認いたしました。

昨今の世相はマスコミ等によると毎日のように犯罪が多発しているのがイヤでも耳目に飛び込んでくるのは皆様方も同様だと思います。その都度「またか」

と心を痛める人、「またかしょうがないな」「いい話が最近ないな」「大変な世の中になったな」「困ったもんだ」と思っているが次の話題に目に移り時間の経過とともに記憶が薄らいでいくのが現状ではないでしょうか。

これは身内・もしくは近隣の人が関っていないからだとは思いますがみなさんは如何なものでしょうか?? まして自分の家族・隣人となると忘れろと言われても生涯記憶から消すことができないのが人の情けではないでしょうか。

地域住民が心一つにして犯罪・災害・事故等を未然防止するには、皆様方が一人でも多く目標及び情報を共有し、地域のパワーをより強力にしなければならぬと思います。それを具現化するには信頼感の確保が最も必要であると思います。

いきなり信頼しろといつても突然に「・・・」では誰が考えてみても、イヤ考えなくとも無理だと思うのが普通で当たり前です。そこで一例としてオア

シス運動を提案したいと思っています。人と接する時に「オはよう・アリがとう・シつれい・すみません」の言葉を活用してみても如何でしょうか。

町内会館で毎週木曜日13時から開催しているカラオケにも声を掛け合って気楽に参加してみても如何でしょうか。

この他に人それぞれ色々なコミュニケーションの方法を用いて信用・信頼感の樹立をしていただければありがたいと思っております。

物理的には、街灯・消火器・消火栓・窃盗防止対策等の管理方法を具体化して取組みたいと考えております。

いろいろ生々しいことを申し上げましたが、いかにせよ一人の力では限界があり成果を上げられません。町内会員の皆様方お一人おひとりのお力をお借りできますよう節にお願い申し上げます。ただきます。

☆☆



文化部部长(7班) 石原 敏雄

魚釣りの日の朝は早い。いつも午前2時半〜3時くらいに家を出る。

その前に天気が気になり、必ずテレビでNHKの天気予報を見て当日の天候と波の高さを確認する。

海釣りで沖に出るため、特に波高がどのくらいか気になるところであるが、波高0.5〜1.5メートルでなければ家を出ることにしている。

釣り場へは家から車で行き、早朝のドライブに眠い目をこすりながら今日一日の釣果の予想を話題にして仲間と話しに花を咲かせる。

舟に乗ってからも海の様子を見ながら今日は釣れるか釣れないか、釣り場に着くまでいろんな話をしながら、これまた大漁の釣果を楽しみにしつつ到着を待つ。

これら道中の会話も釣仲間の楽しみの一つかもしれない。

釣り場は茅ヶ崎、腰越、久里浜であるが、たまには遠く小田原へ行く。

釣る物により行き先は違う。私の場合は、アジだと久里浜か腰越、イナダやカツオだと腰越か茅ヶ崎、イカは腰越か小田原が良いように思う。

釣り上げたときの感触は真アジだと竿先がびくびくと手に伝わる感じが大変心地良い。でも、やはりイナダ、カツオ等が釣れたときの引きの強さの感触が一番気分が良いと思う。

水揚げが良く大漁だと魚の運搬や家に帰ってからの、さばきが大変だ。

魚の調理はアジだと刺身、タキ、ナメロー、ヒラキ等が良い。イナダ、カツオなら刺身、何にしても新鮮な魚は刺身が一番美味しいと思う。

皆さんも、快晴の下、風いだ海での釣の醍醐味を味わってみては如何でしょうか。楽しいですよ。

☆☆

母子保健推進員の活動

副会長 伊藤 ふじ子

我が家が志木に引越して来たのは31年前の事、息子3歳、娘1歳のときです。

約30年近く看護師として働き、今は保健センターを通して妊産婦や乳児のいらっしやる家庭訪問、各健診、ルストホフ、洗濯たたみ、身障者施設でのお手伝い、赤十字募金等への参加など、全く知らない畑ではないので忙しくも楽しみながらさせていただいております。

核家族での子育ての悩み、高齢者だけの世帯等、昔の大家族の関係が薄らいできており、世代それぞれに不安を抱えていると耳にします。

役所等へのパイプ役として何かお手伝いさせて頂けたらと思っております。

若い頃にはあまり考えず生活

していましたがこんな事を考えるようになったのは年のせいでしょうか・・・ ☆☆☆

新会員の紹介

1

3班 川北

初めまして、このたび柏町に越して来ました川北です。

ここ柳瀬川の桜並木は見ごたえがあり、春の楽しみが増えました。

花といえは私たちの小さな庭にも草花を植えようと、ご近所の庭先に見える花々を参考に、あれこれ楽しく想像しているところですよ。

それから、こちらに越してきて初めての町内会への参加に少々緊張しています。

不慣れな点があるかとは思ひ

2

4班 三井 康継

はじめまして。4月よりこの柳瀬川町内会に妻と私2名で転居して来ました三井です。

町内会の会員としては「はじめまして」というごあいさつとなりますが、私にとって志木市は在住30年を超え、志木三小、志木中を卒業しているとても馴染みのある地区です。

柳瀬川の魅力といえは、その土手に咲き、人々が集まる力を持つ桜並木だと思います。この桜並木の側に住めることを夫婦共に幸福に感じています。

これから、皆様のご指導を頂きながら地域に貢献して参りたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。 ☆☆☆

《編集部から》

■サークル活動・募集中

念願の町内会館が完成しました。現在は毎週木曜日にカラオケ(自由参加)を楽しむ会を設けています。

ヨガや書道やパソコンなど、やってみたい・参加したいというものがあつたら、ぜひサークルを作ってみませんか。

お申し出は、各班の班長さんへどうぞ。

■町内会・臨時駐車場

先日の回覧でお知らせしたように、町内会館の前に臨時の駐車スペースを設けました。ご来客やレンタカーを借りたときなど、臨時に駐車する必要がでたときにご利用ください。

なお、ここはあくまで町内関係者のための短時間の臨時スペースです。利用はおおむね2時間までとし、それを超えるときはフロントウインドウの内側(ダッシュボード上)に「班名と姓」を書いた紙を置くようにしてください。

前回の第26号から、「広報やなせがわ」のメール配信(PDF形式・カラー)を始めました。受信をご希望の方は、「お名前と班名」をご記入の上、次のアドレスにメールしてください。 masakisugi@nifty.com